

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目次

■活動報告

第235回ワールドアスレティックス（WA）カウンシル会議報告

第235回ワールドアスレティックス（世界陸連、WA）カウンシル会議が2024年7月30日～31日にフランス・パリで開催され、カウンシルメンバーとして参加いたしました。

第51回日本陸上競技連盟トレーナー研修会開催報告

第51回日本陸上競技連盟トレーナー研修会を2024年8月25日（日）に、日本大学陸上競技場にて開催いたしました。

「陸上競技研究紀要」（Bulletin of Studies in Athletics of JAAF）投稿規定

日本陸上競技連盟では、指導者への有益な情報の提供を目的に、毎年、陸上競技研究紀要を発行しています。内容は、みなさまからの投稿論文、特集企画、科学委員会の研究報告、医事委員会からのレポートなどで構成しています。

■大会観戦ガイド

JOCジュニアオリンピックカップ 第18回U18／第55回U16陸上競技大会

■事務局からのお知らせ

第109回日本陸上競技選手権大会・35km競歩開催について

パリオリンピックメダリスト＆入賞者一覧：声援を力に #まだ見ぬステージへ
上月スポーツ選手支援事業に4名の選手が認定！

information

- ・個人情報の共同利用について

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



- ・WRK対象競技会／広告規程について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2024年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2025年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/>



- ・アンチドーピング／鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



第235回ワールドアスレティックス (WA) カウンシル会議報告

日本陸上競技連盟副会長 有森 裕子

第235回ワールドアスレティックス（世界陸連、WA）カウンシル会議が2024年7月30日～31日にフランス・パリで開催され、カウンシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. 現況報告

陸上界はオリンピックに向けて大きな盛り上がりを見せているが、パリ大会はそれを更に加速化させる素晴らしい舞台になる事は間違いない。マーケティングでは新たにソニー、森永製菓とスポンサーシップ契約を締結する事が出来た。WAは革新的なアプローチをとり、改革を目指しているが、来年以降のグローバルカレンダーでは、世界陸上競技選手権でシーズンのクライマックスを迎える事になる。画期的なイノベーションとして注目を集めているWA Ultimate Championshipsは2026年9月11日～13日、ブダペストでの開催に向け建設的な議論と準備が進められている。ネットフリックスで放映されている「SPRINT」は人気を博し、若い世代や新たなファンの獲得に繋がっている。今後も継続して、選手、コーチ、関係者の意見に耳を傾け、陸上界に何が求められているのか、どうすれば陸上やスポーツの価値を向上させる事ができるのかを、データ分析も行いながら追求していく必要がある。地球温暖化は全てのスポーツに影響を与えており、しっかりと向き合うべき課題である。

2. WA主催大会 (WAS イベント)

①2025年世界陸上競技選手権東京大会のタイムテーブルが承認された。

大会は9月13日から21日まで開催され、全てのロード競技は午前セッション、トラック・フィールド種目のファイナルはイブニングセッションで実施される。午前セッションは週末と祝日のみに行われ、平日はイブニングセッションのみとなる。大会は男女35km競歩で幕を開け、最終日は9種目のファイナルを含み、男子4×100mリレーで幕を閉じる。

②2025年世界陸上競技選手権東京大会の参加要項が承認された。

選手は参加標準記録達成又はワールドランキングから参加資格を取得する事ができ、各種目のターゲットナンバーの約半数が参加標準記録で資格を取得できるように設定されている。

マラソン、10,000m、競歩、混成、リレーの記録の有効期間は既に始まっているが、その他の種目はパリオリンピックでの成績も含めた2024年8月1日から2025年8月24日とする事が承認された。

リレー種目については世界リレー（2025年5月、広州・中国）の各種目トップ14チームが参加資格を得る。尚、ホスト国（日本）は参加資格を有する競技者が不在の種目に1名（リレーの場合は1チーム）の競技者をエントリーする事ができるが、それはホスト国の選手選考方針に従って行われるものであり、又、混成種目及びフィールド種目の場合はWAテクニカルデレゲートの承認が得られた場合のみに限られる。

③世界室内陸上競技選手権大会（2025年3月21日～23日、南京・中国）の参加要項が承認された。

参加資格は参加標準記録の突破及びワールドインドアツアーズのワイルドカードで取得できるが、ターゲットナンバーに達しない場合には、2024年9月1日から2025年3月9日のトップパフォーマンスリストから選出され、ワールドランキングが使われない事が合意された。

④世界リレー（2025年5月10日～11日、広州・中国）の参加要項

が承認された。

各種目には32チームが参加する事ができ、パリオリンピックのトップ16チームには自動的に参加資格が与えられ、主催国である中国は各種目1チームをエントリーする事ができる。これ以外には2024年1月1日から2025年4月13日までのトップリストから選出される。

⑤世界室内選手権及び世界リレーのWA派遣競技役員が決定し、経験者と新たな資格取得者を組ませる事によって現場での教育と新しい世代の活躍の場の拡大を目指す。今後更にジェンダーバランスとエリアバランスを推進する。

3. WA規則と規定の変更

①選手代理人（AR）に関する規則

2024年1月からARの義務条項が徹底化されたが、今後改善すべき点が議論された。ARライセンス料は1000ドルで据え置くが、損害賠償保険加入の義務化を任意に変更する。WAは選手に対して、ARとの契約内容を選手自身が詳細に把握し、理解するように教育する。利益相反と見做されるポジションとして、WAのスタッフやWASイベント、ワールドランキング大会の大会ディレクターやテクニカルデレゲートが挙げられている。

②テクニカルルール9.2が改正され、フィールド種目及び5000m以上のレースで混合レースの記録が認められる大会が明確にされた。

③テクニカルルール20.1が改正され、パリオリンピックで実施されたRepechage（敗者復活レース）がpreliminary round（予備予選）に加えて認められる事を承認した。

④陸上競技場の認証システムの延長について議論され、行政や競技場管理施設への財政負担、サステナビリティを鑑みて、現在定められている12年を超えても、承認された検査機関によるフィールドテストの報告書を提出する事で全面改修を回避する事ができる事もあるとした。12年経過後の検査の間隔は短く設定する方向。

⑤2025年のラベル大会の規則が承認された。大きな変更点としては最大大会数として、プラチナラベルが12大会、ゴールド大会が25大会と制限が設けられた事で、大会の乱立と質の低下を防ぐ事を目的としている。但し、この大会数の上限にはマラソン距離以外のレース及び女子単独レースは含まれない。

4. その他

①バーレーン陸連がアンチ・ドーピング規則第15条の違反を認め、その改善に向けて取り組む事を約束した。バーレーン陸連は2024年6月1日から12か月間WAS大会には参加する事ができず、世界陸上東京大会に参加できる選手の最大人数は10となる。

②国際競技会に於けるロシア・ベラルーシのステータスを調査するワーキンググループはパリオリンピックでの他競技の状況分析も行い、次回カウンシル会議で報告する。

③ジェンダーダイバースアスリートに関するワーキンググループでは“エリート”の定義を明確にする重要性を認識し、その上でトランスジェンダー、XY DSD選手の参加について更に調査、議論を深める。

④セーフガーディングは重要な課題であり、いくつかの違反事例も報告されている。セーフガーディングのオンラインコースは一部関係者を対象に必須化していく方針である。

第51回日本陸上競技連盟トレーナー研修会開催報告

日本陸連医事委員会トレーナー部運営部員 廣重陽介

第51回日本陸上競技連盟トレーナー研修会を2024年8月25日（日）に、日本大学陸上競技場にて開催しました。本研修会はコロナ禍明け初の対面での研修会として開催することができました。本研修会はトレーナー部が年2回、定期的に開催しており、近年では日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（AT）の更新研修としても認定され、トレーナー部員に加え、部員外のATの研鑽機会としての役割も果たしています。

今回のプログラムは、開催まで1年を切った東京世界陸上に向け、救護活動能力の向上を目的とし、「陸上競技場における救護活動」をテーマに、実技を中心に救護活動のトレーニングを企画しました。受講者の多くは、陸上競技の救護活動経験が少なく、事前学習が必要であると感じたため、基本的な搬送方法についての学習資料を事前に配信し、予習をしていただきました。

研修会では夏の陸上競技会を想定し、暑熱環境下

の陸上競技場にて4つの救護シチュエーションを設定し、シミュレーショントレーニングを行いました。救護シチュエーションとしては、陸上競技会でたびたび起こる「ハムストリング肉ばなれ」、「接触による転倒」、「熱中症症状」に加え、重篤な事故である「頭部外傷疑い」発生場面としました。対応のポイントとして、救護チーム内、救護チーム間、メディカルチーム全体と連携した、1) アクシデント発生の認知、2) アクシデント発生の共有、3) 安全な駆けつけ、4) 発生現場での適切な評価と判断、5) 資器材の扱い方と安全な搬送方法、6) 医務室や救急隊への引継ぎ、7) その他（他の救護観察グループの観察範囲の変更や搬送のサポート準備など）を中心に示し、競技ルールに基づき注意点の共有や技術練習による難しさの実感、課題点の抽出などを行いました。多くの参加者が救護活動に慣れていない中での参加であったため、頭ではわかっているものの、スムーズに、確実にできないという状況も見受けら



①傷病者の状態確認



②ヒューマンキャリーによる搬送

れ、トレーニングの必要性を実感していただけたのではないかと感じています。また、「こんな場合はどうするのか」などの議論が各所で多く見受けられ、陸上競技会の救護者としての当事者意識を感じることもできました。同時に、講師として、救護活動における役割別の救護マニュアルの作成など、教育についても今後工夫が必要であると感じました。

本研修会では、世界陸上財団の医務担当者に視察をしていただきました。世界陸上における救護運営

についての意見交換も行われ、今後、連携した準備についても進めていきたいと考えています。

久しぶりの対面での研修会開催でしたが、トレーナーという職務の特性上、実技能力を高めることも重要事項のひとつであるため、対面での研修会も継続して企画し、陸上競技に関わる多くのアスリート、愛好家の安心、安全を守るための研鑽を続けていきたいと考えています。



③布担架への移乗



④布担架を使用した搬送



⑤重篤な外傷を想定した頸椎カラー、スパインボードによる頭部・全脊柱固定



⑥重篤な外傷を想定した頸椎カラー、スパインボードによる頭部・全脊柱固定

「陸上競技研究紀要」 (Bulletin of Studies in Athletics of JAAF) 投稿規定

陸上競技研究紀要編集委員会

1. 投稿資格について

特に制限は設けない。

2. 投稿内容および種類について

投稿内容は陸上競技についての理論と実践に関するもので、内容に応じて、総説、原著、研究資料、実践報告（指導法および指導記録の報告）、文献紹介に分類される。スタイルは和文、英文のどちらでもよい。

投稿論文には上記の投稿種別を明記し、日本語に続けて英文のタイトル、著者、所属をつけ、総説および原著には英文要約（150語以内）もつけなければならない。（注：何らかの理由で英文要約等の作成が困難な場合は、編集委員会にその旨をご相談ください）

3. 採否等について

原稿は査読を行い、査読結果をもとに採否および掲載順序の決定、校正などは編集委員会が行う。

4. 原稿の書き方について

本文は、A4判縦置き横書きとし、1頁に横42文字×縦38字で約1600字、刷り上がり10頁以内、図表もその頁数に含む、すべて白黒にて作成すること。

計量単位は、原則として国際単位系（m、kg、sec など）とする。

また、英文字および数字は半角とする。

5. 文献の書き方について

本文中の文献は、著者（発行年またはonline）という形式で表記する。

例1) 田中（1996）は ——

例2) 文部科学省（online）は ——

文献は、原則として、本文最後に著者名のABC順で記載する。書誌データの記載方法は、著者名（発行年）、論文名、誌名、巻（号）、ページの順とする。

例) 吉原 礼、武田 理、小山宏之、阿江通良（2006）女子棒高跳選手の跳躍動作のバイオメカニクス的分析。陸上競技研究紀要、2：58-64。

伊藤 宏（1992）陸上競技の発育・発達。陸上競技指導教本—基礎理論編—。日本陸上競技連盟編、

大修館書店、55-72。

同一著者、同発行年の文献を複数引用した場合は発行年の後にa、b、cをつける。

例) 田中ら（1996 b）は、——

WEBサイトやWEBサイトに掲載されているPDFファイルなどを引用文献とする場合は、著者名（発行年）WEBページの題目、URL、（参照日）と表記する。発行年やファイル名が特定できない場合は（著者名、online）と表記する。

例) 日本陸上競技連盟（online）陸上競技ヒストリー、
<http://www.jaaf.or.jp/history/syoushi/>、（参照日
2020年7月24日）

原稿の書き方および、文献の書き方の詳細は、「体育学研究」投稿の手引に準ずる。

6. 原稿の提出先

投稿原稿は電子データ（本文はMS Word、図表はMS PowerPointやExcel等）で作成し、下記へE-mailの添付ファイルとして送付する。

日本陸上競技連盟

「陸上競技研究紀要」編集委員会宛て

E-mail：kiyou@jaaf.or.jp

7. 原稿の締め切り

原稿の締め切りは特に設けず、随時受理し、査読を行う。ただし、2024年度版は、2025年1月13日（月）とする。

8. その他

本研究紀要に掲載された内容の著作権は公益財団法人日本陸上競技連盟に帰属する。

（2024年8月26日 改訂）

大会観戦ガイド

第18回U18 / 第55回U16陸上競技大会

▼期日：2024年10月18日（金）～10月20日（日）

▼会場：三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場
（〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町510番地）

▼アクセス：伊勢市駅または宇治山田駅から三重交通バス 伊勢市内線（浦田町行／宿浦行／御座港行）で浦田町下車 徒歩約6分

三重交通バス（内宮前行）で猿田彦神社前下車 徒歩約10分

近鉄線で五十鈴川駅下車 徒歩約20分

▼競技種目：

U16男子（5種目）：100m、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（5.000kg）

U16女子（5種目）：100m、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（2.721kg）

U16男子都道府県代表枠（6種目）：150m、1000m、110mH（0.991m／9.14m）、三段跳、ジャベリックスロー（300g）、円盤投（1.500kg）

U16女子都道府県代表枠（6種目）：150m、1000m、100mH（0.762m／8.50m）、三段跳、ジャベリックスロー（300g）、円盤投（1.000kg）

U18男子（15種目）：100m、300m、800m、3000m、110mH（0.991m／9.14m）、300mH（0.914m／35m）、3000mW 走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（6.000kg）、円盤投（1.750kg）、ハンマー投（6.000kg）、やり投（800g）

U18女子（15種目）：100m、300m、800m、1500m、100mH（0.762m／8.50m）、300mH（0.762m／35m）、3000mW、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（4.000kg）、円盤投（1.000kg）、ハンマー投（4.000kg）、やり投（600g）

▼問合せ先：

【日本陸上競技連盟・事務局】

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

TEL：050-1746-8410（土・日祝日を除く10：00～18：00）

【三重陸上競技協会】

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町 510 三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場内

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1832/>



事務局からのお知らせ

◆◆第109回日本陸上競技選手権大会・35km競歩開催について◆◆

例年4月に石川県・輪島市にて開催しておりました「日本陸上競技選手権大会・35km競歩」について、2024年1月1日に発生した能登半島地震から復興するまでのあいだの代替地として、2025年3月16日（日）に石川県・能美市で開催される「第49回全日本競歩能美大会（併催：日本学生20km競歩選手権大会 兼 Asian20km RaceWalking Championships in NOMI）」で、第109回大会以降の日本陸上競技選手権大会・35km競歩を併催することを決定いたしました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/21037/>



◆◆パリオリンピックメダリスト&入賞者一覧：声援を力に #まだ見ぬステージへ◆◆

パリオリンピックメダリストと入賞者をお知らせします。11日間の応援、ありがとうございました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/21007/>



▼特設サイト

<https://www.jaaf.or.jp/olympic/paris2024/>



▼【Behind The Stage】

男子4×100mリレー 公開練習に密着 |

陸上日本代表 TEAM CAM Vol.1

<https://www.jaaf.or.jp/gallery/article/20653/>



セルジーでの事前合宿に密着 |

陸上日本代表 TEAM CAM Vol.2

<https://www.jaaf.or.jp/gallery/article/21010/>



事前合宿ドキュメンタリー後編 |

陸上日本代表 TEAM CAM Vol.3

<https://www.jaaf.or.jp/olympic/paris2024/gallery/article/21057/>



◆◆上月スポーツ選手支援事業に4名の選手が認定！◆◆

9月10日（火）、東京都内で「上月スポーツ選手支援事業」の認定式が行われ、陸上競技からは4名が参加し認定証を受領いたしました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/21018/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

尾縣 貢（陸連会長）
有森 裕子（陸連副会長）
風間 明（陸連副会長）
室城 信之（陸連副会長）
田崎 博道（陸連専務理事）
山崎 一彦（陸連強化委員長）
鈴木 英穂（陸連事務局長）
石井 亮（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

平野 了
◇時報編集担当
日本陸連 広報

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869